

【造形表現活動レポート】

感触から広がる探究の世界

～でんぷんのりを用いた造形表現活動における心理と環境～



■ 「個の世界」の尊重

大人が決めた「完成図（ゴール）」へ導くのではなく、子どもが自分の感性で動く「個の世界」を大切にしました。これにより、子どもは評価を気にせず、自分の内面から湧き出る表現に集中することが可能となります。



今回の活動は、単なる「のり遊び」を超え、将来的な思考力の基盤となる「非認知能力」の育成に深く関わっています。

学びのサイクル： 発見 → 実現 → 表現

この循環を繰り返すことで、子どもは「自分で考え、試し、形にする」喜びを学びます。

現代の子どもたちに見られる「汚れへの抵抗感」は、裏を返せば、こうした泥臭い実体験を通じた学びの伸び代（ポテンシャル）が非常に大きいことを示唆しています。

大人が「正解」を提示せず、プロセスの伴走者として存在することが、豊かな感性を育む鍵となります。